

里山に託す私たちの未来

2007年テーマ

「里山となりわい」



イラスト・松下優子、テーマ題字・倉島貴浩(ワークホーム里山の仲間たち)

2007年テーマ「なりわい」の定義

かつての里山には、自然の恵みを楽しみ先人の知恵に学ぶ人々の暮らしがあり、その環境に負荷をかけない生活と生産の技術が豊かな里山を守ってきました。このような自然と一体となった人々の生産活動を「なりわい」と呼びたいと思います。

里山を支える「なりわい」のしくみと現状を知り、千葉県らしい里山の活用や可能性を探ります。

里山とは……

自然と調和・共存する人々の生活に育まれた森林・草地から水田や畑、川沼、水辺、そして集落を含む人と自然と文化とが一体となった空間です。この里山は、自然と人との共存の場であり、現在および未来の人々にとっては大きな価値を有します。

千葉県では、里山の保全・整備と活用を目指し2003年5月に「里山条例」を施行しました。その趣旨をしっかりと各地の現場に根付かせるためには、行政をはじめ農家、市民・NPO、研究者等が互いに力を合わせた息の長い取り組みが求められます。

■主催■ 里山シンポジウム実行委員会、ちば里山センター、
(社)千葉県緑化推進委員会、東金市、千葉県、城西国際大学

■後援■ 千葉日报社、朝日新聞千葉総局、読売新聞千葉支局、毎日新聞社千葉支局、産経新聞社千葉総局、
東京新聞千葉支局、日本経済新聞社千葉支局、NHK千葉放送局、千葉テレビ放送、
BayFM、千葉県ケーブルテレビ協議会、(財)日本自然保護協会、千葉市、八千代市